戦争体験を聞く会

２０１３．８．１（木）PM１時30分～
南山集会所

参加者
体験を語っていただいた方々（7名）
井上さん（８５歳)、笹田さん（８６歳)、黒田さん（７１歳)、溝上（70歳）-
竹内さん（７１歳)、斉藤さん（７３歳)、三木さん（７４歳）
体験を聞く子供たち（１３名）
その他、お世話していただいた熟年会、福祉委員会、子ども会の方々（７名）
計（２８名）

会長挨拶
昭和57年、京都府下で初めて非核平和都市宣言が市議会に提案され、満場一致で議決された。当時、西村市長がおられたとき、「いろいろなまちづくりの計画も平和だから実現できる。戦争がひとたび起きると、自分の自由なことができなくなる。平和を守るために何ができるのか？平和を守るために頑張っていきましょう」という考えのもと創られたものです。これを実践する会として作られたのが非核平和都市推進協議会（略称ピース八幡）です。主な活動として、８月５、６日に市内の中学校から選ばれた平和大使を広島に派遣、市民の皆さまに折っていただいた平和の折り鶴をささげてくること、市内の各施設にアンネの日記を書いたアンネ・フランクに由来する“アンネのバラ”を植樹、また、今回のように、戦争体験を語る会を開催することなどを行なっています。

皆さん、戦争を生き抜いて来られた方は、それぞれ、戦争で受けた悲しみを持っておられます。それは、時を経ると薄らいでいくと言われますが、家族を亡くされた方の悲しみは、時が癒してくれることは無いと思います。こうした悲しみを二度と起こしてはダメだと思います。

現在、テレビやアニメの中で、戦争を美化するものやゲームの中で殺し合いをするものがある状況なのです。ゲームの中では、死んだものも生き返るのですが、実際はそんなことは無いです。

本当の戦争は、こんなに酷いのだ、好きなこともできない、好きなことも言えない。そんなことが、実際の体験を聞き、こういう思いを共有していきたいと思います。こんな話は、今しかできない、あと１０年も経ったら、こんな機会すらできないと思います。よろしく、お願いします。

井上さん
１７年に京都、１８年に支那（現在の中国）に渡り、南京で正月を迎え、それから終

戦まで軍隊生活をした。軍隊では、上の人が命令したことは、それしかできない。何も反論もできない。何もできない。半年間、教育を受けて、最前線に行った。最後の作戦で、中隊全滅。その２日前に負傷、未だに肩に傷が残っている。その作戦で、目の前で、「お母さん～！」と言って、亡くなった戦友を見ました。大半、亡くなるときは、「お母さん」ですね。今でも残っているのは、横に居た戦友が大腿部に弾を受け、血がビュー飛んだこと、股ずれで、ズボンが破れてずるむけになったことです。
本当の戦争は、テレビで見るようなものでは、決してない。

黒田さん
　昭和１７年生まれ。終戦は３歳で戦争の記憶は全然ありません。終戦後３年、日本の中も混乱している中ですが、食べるものもないし、行きだした幼稚園、大きな講堂に全部入れられて、遊んでいました。勉強って、特無いし、夏になると、真っ裸で泳いでいました。田舎だったので、信号もないし、馬車や荷車が走って、材木などを運んでいました。今みたいに交通事故などもありません。あの頃、わたしが一番楽しみにしていたのは、沖にみかんを積んだ船が着くと荷揚げの途中に、こぼれた物を拾うんですよ。それが一番楽しかったですね。金も何にも無かったですから・・・
小さい頃、配給切符を持っていかないと、パンもお米も買えない、そんな時代でした。家族の名前を書かれた米穀通帳があって、それをもって米屋に行き、升で量って買っていました。その買い物は、子供の仕事でしたね。親は、仕事で忙しく、働かなければ、食べていけなかったですから・・・その頃は、大学出ても月給５～６千円の時代で、わたしの初めての給料は、２千円でした。まあ、その頃の１０円は今の２千円ぐらいの価値がありました。ほんとに食べ物が無かったですね。お百姓さんだったら、お米やいろいろなものを作っておられたのでしょうが・・・

竹内さん
　わたしも同じ昭和１７年生まれで、戦争の記憶は全然ありません。田舎ですので、食料で困ったという経験もありません。僕のオヤジは、三菱関係の電気屋で、零戦とか飛行機の中の電気系統の設計をしていました。だから、戦地へは、行っていません。叔父が満州で、小学校の頃、いろいろな話を聞かせてもらったことがあるのですが、戦争でどんなことをしてきたか、肝心なことになると、あまり話したがらないのです。
　人間魚雷で突っ込んでいくときになって、故障で助かった経験を聞いたことがありますが、戦争で受けた傷の深さを考えさせられましたね。

溝上さん
昭和１８年生まれ。わたしの本家の人は２人ばかり戦死しています。わたしの周りでは、多くの方が出兵して戦死されておられます。子どもを亡くされた親御さんから戦争のことをいろいろ聞かせていただきました。戦争というのは、惨めなもので、広島に原爆が落とされ、敗戦国家になったのですが・・・勝っていれば、また違ったもの

だったかもしれません。わたしが住んでいた鹿児島の知覧町には、特攻兵士の訓練場があって、そこから特攻兵が飛びったって行ったのです。今でも特攻記念会館に多くの資料が保存されています。１５歳で特攻兵として出撃していった方の手紙を読んだとき、涙が出ました。引き換え、今の１５歳が何をやっているか？何か、今の教育が間違っているように思います。現実に何十万もの人が亡くなっている、その方の御霊を弔うことがなくして、戦争のことを語るのは、ちょっとおかしいなと思います。

笹田さん
　神戸市におりまして、昭和２０年４月に入隊しました。わたしが最後の軍人だったということになります。8月に満州へ行きました。3年間シベリアに抑留されました。その頃のことは、辛くて言えません。信濃丸で帰国しました。

斉藤さん
　昭和１６年、戦争が始まる年に生まれました。国賊と言われるくらいわたしの身内は誰も戦争に行っていません。互いに話し合いをしたら、戦争は起こらないと思う。国と国の話し合いで、何事も収めて、戦争は絶対したらあかんという思いでいます。
　皆さんも学校の中でもいじめなどをせず、やってほしい。
　裏の畑に町内の人が入って来られるほど、大きな防空壕があって、名前や血液型を書いた防空頭巾をかぶって、逃げた経験はありますが、怖いというより、あとで、お菓子をもらえるのが嬉しかったですね。
防空壕の上は、普通の畑や鳥小屋があって、上から見ると全くわかりません。
　防空壕にはいろいろな形があって、庭や畑に作ってあるものから、家の床下の土を掘って作るものなどがあったようです。飛行機から落とされる焼夷弾が屋根を突き抜け、天井裏で止まって、火事になることがあったので、天井板を取り除いた家もあったと聞きました。

三木さん
　大阪の大正区に住んでいましたが、戦後、食べ物が無く、配給は、米でなくさつまいもだった。ほんとにひもじい思いをしました。

黒田さん
　家にも防空壕はありました。５～６人で家族が入れるほどの大きさでした。
そこで、よく遊んだことを覚えていますね。

井上さん
　昭和 19 年にやって来た日本の兵隊さんは、惨めなもので、竹筒の水筒、銃は、分隊に一つぐらいしか無かった。

三木さん
　　わたしは、昭和15年生まれですが、わたしの父は、ビルマ（今のミャンマー）で戦っていましたが、食べ物がなく、蛇やカエルを食べたとよくお風呂の中で聞かされました。

井上さん
　蛇やカエルは当たり前、それは、ご馳走だった。そうじゃなきゃ、生きていけない。戦地では、食料支援は、本当に滞っていた。戦争など、絶対したらダメだということを伝えたい。

溝上
　戦後、食べ物は本当に無かったですね。百姓さんに頼んで、お米を分けてもらったりしましたね。広島に原爆が落とされた惨状を描いた「ヒロシマ」という映画を見せてもらって、戦争ってほんとに怖いと思いました。今でも脳裏に残っています。
あの頃は、白米を食べたことが無かったです。あわやひえ、さつまいもなど何か混ぜてお粥のようにして食べていました。ほかに、芋の蔓や葉っぱなども入れました。
あわやひえは、今では鳥の餌ですね。

黒田
　学校給食が無く、学校の給食室で、家にあるいろいろなものを持ち寄った具を入れて味噌汁を作って食べたこともありました。
　その後、アメリカから頂いた脱脂粉乳、筋ばっかりの鯨の肉などが給食に出ました。脱脂粉乳って、臭くて飲めなかったですね。

高橋
　戦地でボウフラがわいている水とわいていない水があると、皆さんはどちらを飲みますか？そう、ボウフラが湧いていない水のほうがいいと思いそうですが、これは、敵が毒を入れているかも知れません。それで、あえてボウフラがわいている水に手を突っ込み、ぱっと、ボウフラが沈んだ隙にすくって飲んだという話を父から聞いたことがあります。生きたボウフラがいるということは、安全な水だということですよね。

井上さん
　子どもたちには「戦争なんて、するなよ」と伝えたい。お年寄りの方には、「孫のためにも絶対に反対してもらいたい」今の中国の状況を見ていると、頭に血が上ることも多いが、よく、話し合って、戦争は絶対避けてもらいたい。特に、若いお母さんに「絶対、戦争をしてはダメ」と言いたい。お母さんて、強いんだから・・・
日本に徴兵制が引かれたら、若い人たちが戦地へ行かなければいけません。

黒田さん
　今の子どもたちは、賢いので戦争なんてしないと思います。

井上さん
　やはり、大事なのは、教育だと思う。あの頃は、みんな、小さい時から軍人になれと教育を受けてきた。

竹内さん
　みんな仲良く、いじめられている人がいたら助けてあげる、無い人がいたら、分けてあげる、こうした優しい気持ちを持ってもらえる子どもになって欲しいなと思います。いじめている人がいたら、「そんなことをしたら、だめだよ」と言える子になって欲しい。昔は、食べ物が少なかったですが、みんな分けて食べていましたから・・・そんな仲良しの子になってください。

斎藤さん
　とりあえず、勇気のある子になって欲しい。勇気が無かったら、何も言えない。正しいと思ったことをちゃんと言える強い子になってください。自分にとって嫌なことは人にもしない。相手のことを考えるのが一番だと思います。